

おおてみち

第125号

令和5年(2023年)10月1日
滋賀県立安土城考古博物館

令和5年度秋季特別展 馬でひも解く 近江の歴史



川田古墳 馬形埴輪 (守山市教育委員会蔵)

吉地薬師堂遺跡 土馬
(野洲市教育委員会蔵)



忍ヶ丘駅前遺跡 子馬形埴輪
(四條畷市教育委員会・四條畷市立歴史民俗資料館蔵)



山ノ神遺跡 陶馬
(大津市埋蔵文化財調査センター蔵)



新開1号墳の馬具を装着した馬の模型 (当館蔵)



△ 供養塚古墳 馬形埴輪 (当館蔵)



△ 曾峠山2号墳 馬形埴輪
(田原本町教育委員会蔵)



北桜南遺跡 土馬 (野洲市教育委員会蔵)

令和5年 10月7日(土) - 11月19日(日)

- ◆ 開館時間 午前9時～午後5時 ※入館は午後4時30分まで
- ◆ 休館日 10月10日(火)・16日(月)・23日(日)・30日(日)・11月6日(月)・13日(日)
- ◆ 入館料 大人900円(690円) / 高大生640円(470円) / 小中生420円(310円) / 県内高齢者(65歳以上)460円(350円)
- ※()は20人以上の団体料金です。 ※状況によりマスク着用のご協力をお願いします。発熱・カゼ症状のある方は来館をお断りしております。
- ◆ 主催 滋賀県立安土城考古博物館
- ◆ 共催 京都新聞

近江風土記の丘
滋賀県立 安土城考古博物館
Shiga Prefectural Azuchi Castle Archaeological Museum

令和5年度秋季特別展

馬でひも解く近江の歴史

会期 10月7日(土)～11月19日(日)
会場 企画展示室

馬は古くから私たちの暮らしや社会に大きな影響を与えた動物です。五世紀、ヤマト王権は馬を戦いの道具として、各地の豪族に分け与えました。栗東市新開古墳に副葬された馬具や仁徳天皇陵古墳出土の馬形埴輪は、馬が権威の象徴であったことを示しています。六世紀、近江の豪族たちは金色に輝く馬具を装着した馬とともに継体大王を支えました。七世紀以降、近江と各地を結ぶ馬を使った情報ネットワークの道(駅路)が整備されます。人びとや馬が行きかう道はその後、東海道や中山道と呼ばれるようになります。



□ 南山下遺跡出土 馬形埴輪
(四條畷市教育委員会・四條畷市立歴史民俗資料館蔵)



紀伊大谷古墳出土 馬首 (複製品・和歌山市立博物館蔵)
原品は重要文化財(国(文化庁)蔵)



今城塚古墳 鞍復元品 (高槻市蔵)

本展では馬が近江の地域社会や文化の形成に果たした役割について考古資料を中心に紹介します。

【主な展示資料】

- ◎重要文化財、△県指定文化財、□市指定文化財
- ◎新開一号墳出土 馬具 (当館蔵)
- 忍ヶ丘駅前遺跡 子馬形埴輪
(四條畷市教育委員会・四條畷市立歴史民俗資料館蔵)
- 仁徳天皇陵古墳出土 馬形埴輪 (宮内庁書陵部蔵)
- 御明田一号墳出土 馬形埴輪・人物埴輪
(野洲市教育委員会蔵)
- ◎紀伊大谷古墳出土 馬甲小札
(国(文化庁)蔵・和歌山市立博物館保管)
- 甲山古墳出土 馬甲小札 (野洲市教育委員会蔵)
- △山津照神社古墳出土 馬具 (山津照神社蔵)
- 堂田遺跡出土 馬鍬 (滋賀県蔵)
- 大將軍遺跡出土 絵馬 (草津市教育委員会蔵)
- 塩津港遺跡出土 船形代 (滋賀県蔵)

〈特別展記念講演会〉

10月8日(日)

「東アジアからみた古代近江の馬文化」

講師 諫早直人氏(京都府立大学文学部准教授)

時間 13時30分～15時

会場 当館2階セミナールーム

参加費 一〇〇〇円(資料代・特別展観覧料含む)

定員 一〇〇名

*往復はがきによる事前申込制(先着順)

*参加費には特別展観覧料も含まれています。

〈特別展関連講座〉

10月21日(土)

「馬駆ける近江―考古資料からみた近江の古代―」

講師 辻川哲朗(公財)滋賀県文化財保護協会

時間 13時30分～15時

会場 当館2階セミナールーム

参加費 三〇〇円(資料代)

定員 一〇〇名

*往復はがきによる事前申込制(先着順)

*今後の新型コロナウイルス感染症の状況によっては、中止または変更する可能性があります。随時、当館ウェブサイトにてお知らせしますので、ご来館の際は最新情報をご確認ください。

〈関連展示〉

『栗東市出土文化財センター秋の公開

「馬・うま・ウマの考古資料」

会期 令和5年11月7日(火)～11月12日(日)

会場 栗東市出土文化財センター

主催 栗東市教育委員会

収蔵資料紹介

安土山下町中掟書

一通

天正五年（一五七七）六月日
四一・三cm × 一五〇・三cm

近江八幡市蔵

天正四年、織田家の家督を嫡男の信忠に譲った信長は、近江国の安土（近江八幡市）に移り、新たな城を築き始めます。天下人・信長の居城、安土城です。築城と並行して、その城下町の建設も始まりました。城下町は、城の西側、南北に伸びる微高地の上に営まれました。その中心は下豊浦および常楽寺と言われ、特に古代以来の豊浦庄の年貢の積出港を抱える港町であった常楽寺には、信長も上洛の途上で何度も宿泊していました。

この町場をさらに発展させるため、信長が翌年六月に安土山下町（城下町）に出した掟書が、この文書です。信長の発給文書の中でも類を見ない大きさの紙（幅約六〇cm）三枚を継ぎ、十三条の項目が列記されています。最後に二丁の龍に囲まれた「天下布武」の朱印、紙の継目裏には、馬蹄形の同文の黒印が捺されています。

第一条は有名な「楽市楽座」条項で、安土の城下町全体を楽市として座役銭をはじめとした税や負担を免除すると言っています。以下の項目でも治安の安定や秩序の維持を謳い、人々が新設の城下町に移住したくなるような特典が並べられています。

この掟書は、天正一四年（一五八六）六月に豊臣

秀次が八幡に出

した掟書とともに

に重要文化財に

指定されています

ですが、令和四年

度に保存修理を

受けました。

以前は巻物の

形だったのです

が、このたびの

修理では保存の

ため、元一枚

物の文書に戻さ

れました。

これら二通の

掟書を、一〇月

二日から一

月一九日まで

の間、安土城考古

博物館で、修理

後の初公開を行

うこととしまし

た。元の姿に戻っ

た近江八幡市の

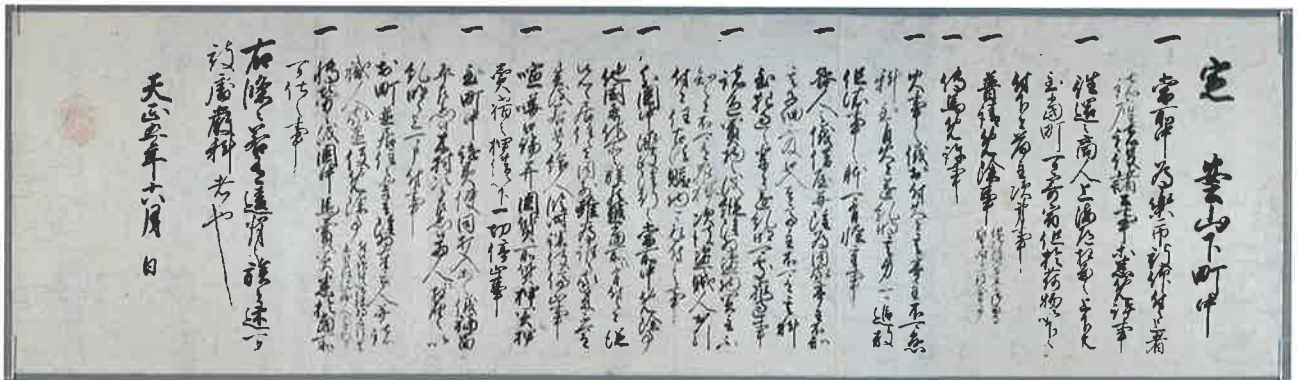
貴重な文化財を

この機会にぜひ

一目ご覧頂けれ

ばと思います。

（高木叙子）



安土山下町中掟書

甦る安土城跡

平成の調査整備事業を振り返る

その1

平成の安土城調査整備事業は、大手道を中心としたエリア、百々橋道を中心としたエリア、搦手道を中心としたエリア、城の中心部、城の南裾部など、城内の各所で行ってきました。今回は、安土城の中心部である「主郭部」の調査を振り返りましょう。

安土城の主郭部とは、黒金門をはじめとする4つの門で閉じられた空間で、天主台・本丸の他に二の丸や伝長谷川邸跡などを含む、城内の最も重要な部分にあたり、6年にわたって発掘調査を行いました。その結果、本丸建物の全貌が明らかになったこと、天主台直下での火災による炎上の痕跡を生々しく残す建物の発見、伝米蔵跡での金箔鯉瓦の発見など、多くの知見を得ましたが、まだまだわからないことが多いエリアでもあります。

そこで今年から始まる令和の調査では、まずは天主台にスポットを当てます。これまでほとんど調査が行われていない天主台の東面・北面を調査し、天主の規模や形状などを推測する手がかりを得て、幻の天主の実像に迫りたいと考えています。調査は今秋から開始です。どうぞご期待ください。

（滋賀県文化財保護課）



天主台直下の凄まじい火災の痕跡

秋季特別展「馬でひも解く近江の歴史」

10月7日(土)～11月19日(日)

でかける博物館 in 安土城考古博物館「一須賀古墳群の馬具」

〈望楼下〉10月21日(土)～11月26日(日)

特別陳列 近江の遺跡発掘調査②

「3世紀の鞍 稲部遺跡出土の矢入れ具」

〈望楼下〉11月22日(水)～令和6年1月14日(日)

特別陳列「安土・八幡山下町中掟書」修理記念特別公開

〈第二常設展示室〉10月21日(土)～11月19日(日)

博物館の主な催し

| 12月 | 11月 | 10月 |
|--|--|---|
| <p>28日(木) 1月4日(木) 年末年始休館</p> <p>25日(月) 休館日</p> <p>18日(月) 休館日</p> <p>16日(土) 連続講座Ⅱ「近江の遺跡は語る」③「弥生時代の大型建物を考える」 講師：木下義信(公財)滋賀県文化財保護協会〈要予約〉</p> <p>11日(月) 休館日</p> <p>10日(日) お正月飾りを作ろう〈要予約〉</p> <p>9日(土) 特別陳列関連講座「3世紀の鞍 彦根市稲部遺跡出土の矢入れ具」(仮) 講師：戸塚洋輔氏(彦根市観光文化戦略部文化財課)〈要予約〉</p> <p>4日(月) 休館日</p> | <p>27日(月) 休館日</p> <p>20日(月) 休館日</p> <p>19日(日) 連続講座Ⅱ「近江の遺跡は語る」②「古墳動態からみた栗太郡の古墳時代」(仮) 講師：宮村誠二(公財)滋賀県文化財保護協会〈要予約〉</p> <p>13日(月) 休館日</p> <p>11日(土) 連続講座Ⅱ「近江の遺跡は語る」①「近江の縄文時代の墓制」(仮) 講師：中村健二(公益財団法人滋賀県文化財保護協会)〈要予約〉</p> <p>6日(月) 休館日</p> | <p>30日(月) 休館日</p> <p>29日(日) 城郭探訪⑤「観音寺城跡と桑實寺」〈要予約〉</p> <p>23日(月) 休館日</p> <p>22日(日) 城郭探訪④「安土城跡」〈要予約〉</p> <p>21日(土) 特別展開連講座「馬駆ける近江―考古資料からみた近江の古代―」 講師：辻川哲朗(公財)滋賀県文化財保護協会〈要予約〉</p> <p>16日(月) 休館日</p> <p>10日(火) 休館日</p> <p>8日(日) 特別展記念講演会「東アジアからみた古代近江の馬文化」 講師：諫早直人氏(京都府立大学文学部准教授)〈要予約〉</p> <p>2日(月) 休館日</p> |

出土遺物公開

多賀町で古代の銅銭

「隆平永宝」が出土

約80年ぶりに古代銭出土場所が明らかに

博物館では令和5年6月10日(土)から7月9日(日)まで、当館エントランスホールにおいて、出土遺物公開「多賀町で古代の銅銭「隆平永宝」が出土―約80年ぶりに古代銭出土場所が明らかに―」を開催しました。出土遺物公開では、連日たくさんのお客様にご覧いただきました。

展示した「隆平永宝」は令和4年11月から令和5年3月に、滋賀県と公益財団法人滋賀県文化財保護協会が発掘調査した、犬上郡多賀町敏満寺の大門池南遺跡から発見されたものです。隆平永宝は古代の銅銭の一種で、土坑から15枚発見されました。他に、役人のベルト飾りである石製丸鞆も1点発見されました。大門池南遺跡では、昭和19年に隆平永宝が約80枚発見されたことが知られており、今回発見された土坑が、かつて隆平永宝が発見された遺構と同じである可能性が高いことがわかりました。



※博物館関連講座の会場は当館セミナールームです。

※事情により行事内容や日時・講師が変更になることがあります。最新の情報は当館ホームページでご確認ください。

※講座はすべて事前申込制となっております。詳細は、電話でお問い合わせください。なお、当館ホームページおよび講座の広報チラシでもご確認できます。

※滋賀県立安土城考古博物館は公益財団法人滋賀県文化財保護協会が指定管理をしています。

おおてみち 第125号

令和5年(2023年)10月1日発行

編集・発行 滋賀県立安土城考古博物館

〒521-1311 滋賀県近江八幡市安土町下豊浦 6678 TEL0748-46-2424

E-mail : gakugei@azuchi-museum.or.jp URL : https://www.azuchi-museum.or.jp